



2025年3月期 第2四半期（中間期）  
決算説明会

CREATIVE CONNECTIVITY

—Challenge, Creativity, Solutions

SMK株式会社（6798）

2024年11月7日

# FY2024 2Q決算の概況

執行役員 北平 至



本年6月よりCFOとなりました北平と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。  
それでは、私からは、10月29日公表の2024年度上期決算実績と通期見通しをお話をさせていただきます

3ページをご覧ください。

## 第2四半期 | 決算概要

3/31

- 売上高は前年同期比2.3%増の236億円に、営業利益は利益率が改善し、前年同期の△1.7億円から1.0億円に黒字転換

単位：百万円

	FY2023 1H実績	FY2024 1H実績	増減率
売上高	23,075	23,614	+2.3%
営業利益 (営業利益率)	△177 (-)	108 (0.5%)	-
経常利益	1,118	74	△93.3%
中間純利益	1,010	△287	-
1株当たり中間純利益（円）	154.50	△45.35	-
為替平均レート（1USD=）	141.27円	153.17円	



右から2列目をご覧ください。

2024年度上期は売上高236億円と前期比2%増、営業利益は100百万円と前期の赤字から約3億円改善致しました。昨年度は取引先の在庫調整が続き営業赤字となりましたが、今期はCS事業が好調に推移したこと、ドル高円安による為替の影響のほか、後ほどご説明いたしますが、変動費や固定費の削減を通じ、上期予想値マイナス5億円に対し、約1億円の利益を計上することができました。経常利益は、9月末為替レートが円高に推移したこともあり、74百万円の黒字に留まり、また当期純利益は特別損益における減損や法人税等の支払いもあり、公表予想値マイナス4億円よりは改善したものの、287百万円の赤字となりました。

4ページをご覧ください。

## セグメント別 | FY2024 第2四半期実績

4/31

- CS事業部：情報通信、車載、産機市場が好調に推移
- SCI事業部：家電市場が好調に推移するも、情報通信、車載、産機市場が低調

単位：百万円

		FY2023 1H 実績	FY2024 1H 実績	前年同期比		コメント
				増減額	増減率	
CS 事業部	売上高	10,349	11,519	+1,170	+11.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ カメラ、E-Bike関連が増加</li> <li>■ タブレット関連が好調</li> <li>■ 再生エネルギー関連が増加</li> <li>■ アミューズメント関連が低調</li> </ul>
	営業利益 (営業利益率)	526 (5.1%)	1,160 (10.1%)	+634	+120.5%	
SCI 事業部	売上高	12,515	11,982	△533	△4.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 家電機器用リモコンが好調</li> <li>■ 車載カメラモジュール、ユニットが低調</li> </ul>
	営業利益 (営業利益率)	△608 (-)	△851 (-)	△243	-	
イノベーション センター 旧 開発センター	売上高	210	113	△97	△46.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ モバイルプリンター用、医療機器用Bluetooth®モジュールが減少</li> <li>■ 照明機器用Sub-GHz 通信システムが前年並み</li> </ul>
	営業利益 (営業利益率)	△95 (-)	△200 (-)	△105	-	
合計	売上高	23,075	23,614	+539	+2.3%	
	営業利益 (営業利益率)	△177 (-)	108 (0.5%)	+286	-	
為替平均レート (1USD=)		141.27円	153.17円			



CS事業部が売上・利益とも前期を上回りました。円安効果に加え、プロダクトミックスもあり利益率が10%まで改善、全社を牽引いたしました。

一方、SCI事業部は、サニタリー関連リモコンは好調であったものの、昨年度に引き続き一部取引先の在庫調整が続き、売上高及び利益共に低調に推移いたしました。

イノベーションセンターは、本年4月の営業・事業部再編に伴い、直接コストが増えたため営業利益のマイナス幅が増加しましたが、おおむね計画並みの水準となりました。

5ページをご覧ください。

## セグメント別 | FY2024 四半期実績

5/31

( ) : 前年同期比  
単位：百万円

		FY2024		1Q比 増減額	1Q → 2Qのトレンド
		1Q	2Q		
CS 事業部	売上高	(+21.1%) 5,717	(+3.1%) 5,801	+84	堅調に推移（1Qと同水準） ■ タブレット関連コネクタ ■ 再生可能エネルギー関連コネクタ
	営業利益	(+1,147.8%) 569	(+23.1%) 591	+21	
SCI 事業部	売上高	(△4.4%) 5,944	(△4.1%) 6,037	+92	堅調に推移（1Qと同水準） ■ エアコン用リモコン ■ サニタリー関連リモコン
	営業利益	(-) △528	(-) △322	+206	
イノベーション センター	売上高	(△36.0%) 64	(△55.3%) 49	△14	低調に推移 ■ 照明機器用Sub-GHz 通信システム
	営業利益	(-) △104	(-) △95	+9	
合計	売上高	(+6.2%) 11,726	(△1.2%) 11,888	+161	
	営業利益	(-) △64	(△16.0%) 172	+236	



2024年の第一四半期と第二四半期の比較です。  
ご覧の通り、いずれの事業部も第一四半期に対して改善傾向にあります。

6ページをご覧ください。

## 市場別・地域別 | FY2024 第2四半期実績

6/31

単位：百万円

		FY2023 1H実績	FY2024 1H実績	前年同期比		コメント
				増減額	増減率	
市場別	情報通信	3,771	4,052	+280	+7.4%	<日本> 家電：サンタリー用リモコンが好調 車載：E-Bike用操作ユニットが低調
	家電	9,045	10,026	+980	+10.8%	
	車載	8,065	7,145	△919	△11.4%	<北米> 情通：タブレット用コネクタが増加 家電：住設用ユニットが低調
	産機・その他	2,192	2,390	+197	+9.0%	
地域別	日本	7,208	6,944	△263	△3.7%	<中国> 産機・その他：再生可能エネルギー関連コネクタが増加 車載：コネクタが低調
	北米	5,866	6,021	+154	+2.6%	
	中国	5,176	5,378	+201	+3.9%	<その他アジア> 家電：エアコン用リモコンが好調
	その他アジア	3,650	4,209	+559	+15.3%	
	欧州	1,173	1,061	△112	△9.6%	
合計		23,075	23,614	+539	+2.3%	<欧州> 車載：車載用リモコンが低調 家電：住設用リモコンが低調
為替平均レート (1USD=)		141.27円	153.17円			



市場別・地域別の実績です。

車載市場がマイナスとなりましたが、その他の市場ではプラスに推移いたしました。車載市場は特にE-bike用操作ユニットが低調に推移したことが要因です。

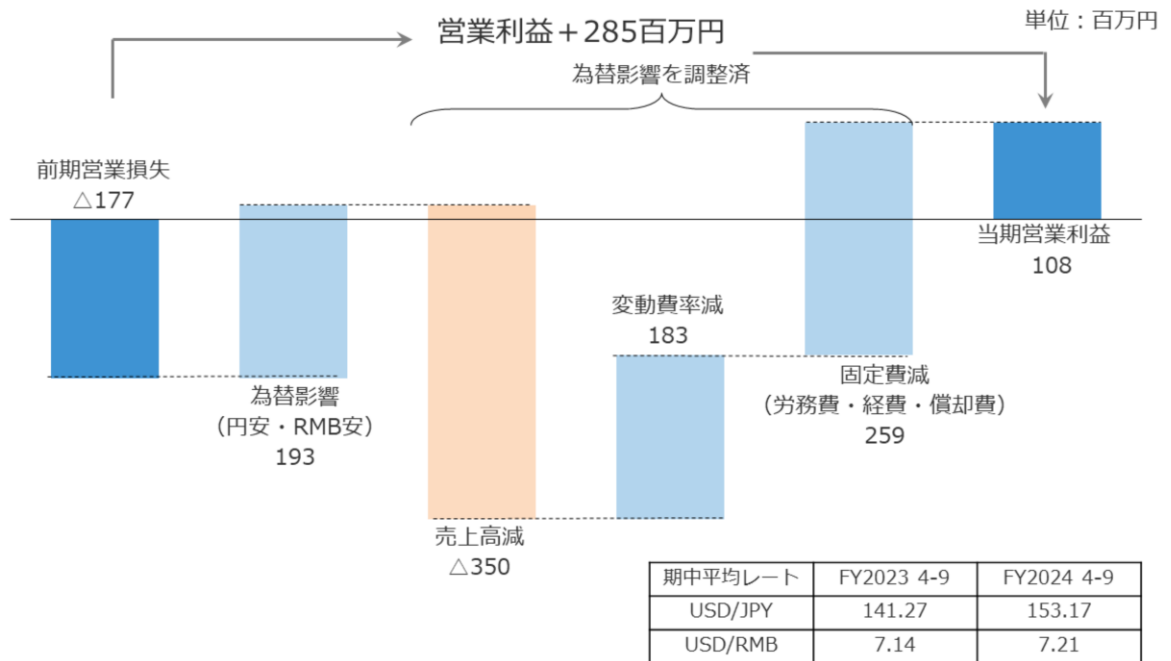
地域別では、日本及び欧州が低調でした。日本ではE-bike用操作ユニット、欧州は車載用リモコンが低調に推移したことが要因です。

7ページをご覧ください。

## 営業利益増減 | FY2024 第2四半期実績（対前年同期）

7/31

- 為替影響を除く実質ベースでは売上高減により営業利益が減少したものの、円安効果、プロダクトミックスによる変動費率改善、固定費削減により営業利益を計上



営業利益の増減を前期実績と比較したものです。

為替影響により約2億円の改善がありました。為替効果を除いた売上減少に伴う利益の減少を、価格転嫁やプロダクトミックスによる変動費率の改善、生産性向上による経費等の削減による固定費の削減から改善し、約1億円の利益を計上することができました。

8ページをご覧ください。

## 業績予想 | 通期

8/31

- 上期業績を踏まえて、通期利益予想を上方修正
- FY2024期末配当において、創立100周年記念配当40円を実施

単位：百万円

	FY2023実績 A	FY2024予想 (2024/5/9) B	FY2024予想 (2024/10/29) C	増減率 C/A
売上高	46,522	50,000	48,000	+3.2%
営業利益 (営業利益率)	△1,243 (△2.7%)	△200 (△0.4%)	200 (0.4%)	—
経常利益	226	200	600	+165.2%
当期純利益	△489	0	200	—
1株当たり当期純利益 (円)	△75.00	0.00	31.56	—
配当金 (円)	100.00 (中間 50/期末 50)	100.00 (中間 50/期末 50)	140.00 (中間 50/期末 90) 期末に記念配当40含む	
為替平均レート (1USD=)	144.56円	150.00円	1H 153.17円 2H 145.00円	



通期の業績予想です。

詳細はこの後に、社長の池田よりご説明させていただきますが、下期は上期に対し、売上高は若干の増加を見込んでおりますが、現時点の予想では当初公表予想の500億円には満たないと想定しており、480億円の減収予想としました。

一方、下期の営業利益は上期に比し、SCI事業は改善すると見込むものの、CS事業でプロダクトミックスによる利益率低下が想定されることから、上期並みの利益約1億円を想定しております。

結果、営業利益の期初公表予想マイナス2億円に対して営業利益2億円、経常利益6億円、当期利益2億円と通期利益予想を上方修正いたしました。なお前提となる下期の為替見通しは、当初想定150円に対して145円に引き下げております。

また配当ですが、来年の4月にSMKは100周年を迎えることを踏まえ、今般、記念配当40円を行うこととしました。

当初、中間・期末でそれぞれ50円の合計100円としておりましたが、記念配当40円を加えて、合計140円の配当を計画しております。

9ページをご覧ください。



## 財政状態 | FY2024 第2四半期末

9/31

単位：百万円

	2024/3 (A)	2024/9 (B)	増減 (B) - (A)
<b>資産</b>	<b>58,444</b>	<b>57,390</b>	<b>△1,053</b>
現預金	10,258	10,942	+683
受取手形及び売掛金	13,222	11,644	△1,578
棚卸資産	9,257	8,948	△308
固定資産	24,619	24,594	△25
<b>負債</b>	<b>26,300</b>	<b>26,250</b>	<b>△50</b>
買掛金及び未払金	6,503	5,742	△761
有利子負債	14,365	14,995	+629
<b>純資産</b>	<b>32,143</b>	<b>31,140</b>	<b>△1,002</b>
資本金	7,996	7,996	-
<b>自己資本比率</b>	<b>55.0%</b>	<b>54.3%</b>	<b>△0.7%</b>



9ページ、10ページは財務状態、キャッシュ・フローでございますが、後ほどご参照いただければと思います。

以上で、私からの説明を終了させていただきます。

## キャッシュ・フローの状況 | FY2024 第2四半期

10/31

単位：百万円

	FY2023 4-9	FY2024 4-9
<b>営業キャッシュフロー</b>	2,062	1,570
運転資金	75	920
税引前利益	1,264	△7
減価償却費	1,254	1,146
その他	△532	△488
<b>投資キャッシュフロー</b>	△977	△1,012
<b>フリーキャッシュフロー</b>	1,084	558
<b>財務キャッシュフロー</b>	217	324
有利子負債の増減額	874	643
自己株式の増減額	△1	△1
配当金の支払金額	△655	△318
<b>現金等期首残高</b>	8,915	10,197
<b>現金等期末残高</b>	9,859	10,882



# FY2024 見通し・ 中期経営計画「SMK Next100」進捗

代表取締役社長 池田 靖光



おはようございます。池田です。

本日はお忙しい中、弊社説明会にご参加いただきありがとうございます。皆様からは日頃より貴重なご意見、ご指導を賜り大変感謝しております。

北平から説明のあった通り、上期の業績については、売上増、営業利益黒字化となりましたが、当期純利益は赤字となり、満足できる結果ではありません。下期も引き続き業績挽回に向けて、全社一丸となって取り組んでまいります。

私からは、事業部別、市場別、地域別の切り口で今期の見通しと、今期から3年間の期間でスタートしている中期経営計画「SMK Next100」の進捗についてご説明させていただきます。

12ページをご覧ください。

## セグメント別 | 通期売上高・営業利益 (FY2023-FY2024)

12/31

単位：百万円

		FY2023 実績 A	FY2024予想		増減率 C/A	利益増減コメント
			(2024/5) B	(2024/10) C		
CS 事業部	売上高	20,586	23,420	23,158	+12.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 増収効果による増益</li> <li>■ プロダクトミックス改善</li> <li>■ 生産性向上</li> </ul>
	営業利益	1,095	965	1,775	+62.1%	
SCI 事業部	売上高	25,541	26,283	24,563	△3.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 前期は棚卸資産の評価損約7億円を計上</li> <li>■ 固定費・組立加工費削減効果</li> </ul>
	営業利益	△2,145	△709	△1,086	-	
イノベーション センター	売上高	394	297	278	△29.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 組織再編（人員増）による固定費増</li> <li>■ Bluetooth®モジュール売上減少</li> </ul>
	営業利益	△193	△456	△487	-	
合計	売上高	46,522	50,000	48,000	+3.2%	
	営業利益	△1,243	△200	200	-	
為替平均レート（1USD=）		144.56円	150.00円	1H：153.17円 2H：145.00円		



まず初めに、セグメント別売上、営業利益の業績推移です。

今期の見込みについては、顧客や市場の状況を再度確認し、下期の為替レートを1USD=145円としました。売上は、期初予想にくらべ5円円高にしたことと、市況の回復が特にSCI関連のビジネスで遅れていることから、期初予想売上500億円から、480億円に下方修正しました。営業利益は、上期は期初予想より改善が進みましたが、下期は売上が期初予想より伸びないことにより上期程度の営業利益を見込み、通期ではマイナス2億円からプラス2億円に上方修正しました。

前期との比較では、CS事業部は、円安押上げ効果もありますが、二桁の増収の上、生産性向上により営業利益も伸ばします。

SCI事業部は、減収かつ営業赤字は期初予想よりも大きくなりますが、コスト削減効果と前期には棚卸資産の評価損7億円の計上がありましたので、前期よりは赤字は減少します。

イノベーションセンターは、Bluetooth®モジュールの売上減の上、組織再編により労務費などが増えたことにより、赤字が増加しております。

13ページをご覧ください。

## &lt;参考&gt; 市場・地域別 | 通期売上高 (FY2023-FY2024)

13/31

		FY2023 実績 A	FY2024予想		増減率 C/A	売上高増減コメント
			(2024/5) B	(2024/10) C		
市場別	情報通信	7,908	9,000	8,700	+10.0%	<日本> 家電：サニタリー向けリモコン、デジカメ用コネクタが好調 車載：E-Bike関連コネクタが拡大、操作ユニットが低調 カメラコネクタが順調 カメラモジュールが減少 <北米> 情通：タブレット向けコネクタが拡大 家電：家電機器用リモコンが好調 住設用ユニットが低調 車載：カメラコネクタが順調 <中国> 産機：再生可能エネルギー関連コネクタが好調 車載：車載関連コネクタが低調 情通：スマートフォンコネクタが堅調 家電：アミューズメント関連コネクタ低調 <その他アジア> 家電：エアコン用リモコンが好調 車載：車載用コネクタが低調 <欧州> 車載：車載用リモコンが低調 家電：住設用リモコンが低調
	家電	17,500	18,000	18,300	+4.6%	
	車載	16,599	17,500	16,000	△3.6%	
	産機・その他	4,513	5,500	5,000	+10.8%	
地域別	日本	15,313	16,800	15,700	+2.5%	
	北米	11,684	14,100	12,700	+8.7%	
	中国	9,830	10,000	10,200	+3.8%	
	その他アジア	7,414	6,700	7,400	△0.2%	
	欧州	2,279	2,400	2,000	△12.2%	
合計		46,522	50,000	48,000	+3.2%	
為替平均レート (1USD=)		144.56円	150.00円	1H: 153.17円 2H: 145.00円		



これは市場別及び地域別売上推移です。

市場別では、上期に車載市場以外は伸長し、通期でも車載市場以外の3市場は売上増を予想しております。情報通信市場では、スマートフォン用コネクタやタブレット用コネクタが好調で、二桁成長です。

家電市場は、下期売上はアミューズメント向けコネクタの落ち込みにより上期より減少しますが、サニタリーやエアコン用リモコンそしてデジカメ用コネクタが好調で、通期では4.6%増となります。車載市場は、上期はカメラモジュール、E-Bike用操作ユニット、中国車載関連コネクタ、欧州車載用リモコンの低調により売上が減少しました。一方、下期はカメラモジュール、E-bike用操作ユニット、欧州車載用リモコンが回復することにより、売上は増えますが、通期でみると3.6%減となります。産機その他市場は、再生エネルギー関連コネクタが好調で、情報通信市場と並んで二桁成長です。地域別では、欧州が、二桁売上減の見込みです。日本とアメリカは前期比ではプラス見込みですが、期初予想と比べると、市況の回復が想定より遅く、大きなマイナスとなっています。その他アジアについては、前期比横ばいですが、期初予想ほどには落ち込まない予想です。

14ページをご覧ください。

- 次の100年の飛躍に向け、『持続的成長に向けた構造改革』を加速
- サステナビリティを前提とし、売上・利益の持続的成長の実現に向けた取り組み、経営基盤並びに資本・財務戦略の高度化を進め、企業価値最大化につなげる



ここから中期経営計画「SMK Next100」の進捗について説明致します。

これは、5月にもお話しさせていただきましたが、中期経営計画の基本方針です。

既存事業の拡大と新規事業の創出により売上・利益の持続的成長の実現を図ります。そのために、製販一体の新しい組織体制、営業力強化、損益管理・原価管理の高度化、権限・責任の明確化、管理部門体制の見直し、人的資本強化、ITシステム高度化などにより経営基盤を強化していきます。また資本・財務戦略を高度化して、資本コストや株価を意識した経営を行っていきます。

これらによって財務価値を上げるとともに、ESG&サステナビリティ経営を推進して、非財務価値も強化して、SMKの企業価値の向上を図っていきます。次ページ以降で進捗内容を説明いたします。

15ページをご覧ください。

## 中期計画進捗 | 売上・利益の持続的成長に向けた取り組み

15/31

課題	取り組み
CS事業部 持続的な売上拡大と収益性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 注力市場での売り上げ拡大           <ul style="list-style-type: none"> <li>- 車載/E-Bike、タブレット、再生エネルギー関連が好調</li> </ul> </li> <li>■ シミュレーション技術の高度化、製造工程のスマート化推進           <ul style="list-style-type: none"> <li>- 自動化推進による生産性向上</li> </ul> </li> </ul>
SCI事業部 収益性の向上と成長軌道への回復	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高付加価値製品の創出           <ul style="list-style-type: none"> <li>- Milweb®ミリ波センサー</li> <li>- 自立給電型コイン電池モジュール</li> </ul> </li> <li>■ 注力市場での売り上げ拡大           <ul style="list-style-type: none"> <li>- 家電：サニタリー、エアコン関連が好調</li> </ul> </li> <li>■ 製造現場の自動化・スマート化の推進           <ul style="list-style-type: none"> <li>- 自動化推進による生産性向上</li> </ul> </li> </ul>
イノベーションセンター 新規事業創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新規事業創出の取り組み加速           <ul style="list-style-type: none"> <li>- 声による認知症診断支援アルゴリズム 検知精度が向上</li> <li>- 電波式見守りセンサー 複数の商談が進行中</li> </ul> </li> </ul>



これは、売上・利益の持続的成長に向けたセグメント別の取り組みです。

CS事業部は、注力市場で売上を上げており、同時に自動化推進の効果もあり、利益率も改善しております。

SCI事業部は、製造現場の自動化は進めておりますが、期待していた車載・E-bike向けの製品の売上が伸びないこともあり、売上、利益とも中期計画よりビハインドしており、今後挽回していきます。ただし、センシング技術と既存技術の融合による新しい高付加価値製品については、Milweb®ミリ波センサーや自立給電型コイン電池モジュールなどを提案しており、早期にビジネス化を目指します。

イノベーションセンターは、自社技術とスタートアップなどの社外技術の融合、すなわちオープンイノベーションにより、ヘルスケア市場向けで、認知症診断支援アルゴリズムや、電波式見守りセンサーで一定の成果が出ており、来期にビジネス化を予定しております。

なお、のちほど詳細な説明は各事業責任者よりございます。

16ページをご覧ください。

## 中期計画進捗 | 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 16/31

課題	取り組み
売上利益低迷と成長性の不透明感 利益のボラティリティの高さ 低いROEとその要因である低営業利益率	①中期経営計画達成に向けた着実な取り組み実行 ②資本効率の向上 ③株主還元・投資家対話の強化

課題	足許の取り組み
資本効率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>ROICの段階的導入 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 1QよりROIC計測トライアル開始</li> <li>- 投下資本の効率化に向けたCCCの改善</li> <li>- 政策株の段階的な解消</li> </ul> </li> </ul>
株主還元の充実・投資家対話の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務健全性を前提にDOE2.0%を目途とした配当の実施（今次中計期間中）</li> <li>100周年記念配当40円の増配実施（100円⇒140円）</li> <li>決算説明資料の充実（1Q、3Qも開示開始）</li> <li>統合報告書の情報内容の充実</li> </ul>



ここに記載の課題により株価が低迷しており、PBR1倍以上に向けて、売上、利益の成長の実現は勿論ですが、資本効率の向上や株主還元の充実、投資家対話の強化も図っております。資本効率の向上施策の一つとして、ROICの社内への段階的な導入を進めており、第一四半期実績からROICの算出を行いました。そして、11月に管理職向け、12月に役員向けのROIC勉強会を開催します。

また、先月よりCCC(Cash Conversion Cycle)の短縮、具体的には売上債権回転期間と在庫回転期間の改善に向け、お客様と交渉を始めております。

株主還元については、株主資本配当率2%程度を目途にした配当方針はすでに発表しておりますが、それに加えて、今回100周年記念配当40円の増配を実施し、年間配当を140円とさせていただきます。

投資家との対話の強化については、決算説明資料充実の他、昨日、弊社Webサイトで開示した統合報告書2024は大幅に内容を拡充しましたので、ご高覧いただくと幸いです。

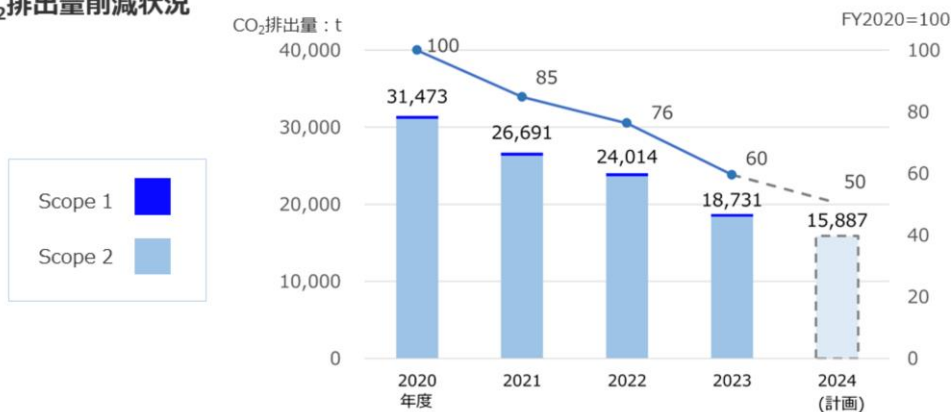
17ページをご覧ください。



## 中期計画進捗 | ESG&amp;サステナビリティ経営の取り組み

17/31

課題	取り組み
ESG&サステナビリティ経営推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サステナビリティ推進体制再編（2024年7月） - CSR委員会と危機管理委員会統合・改組⇒ CSR・サステナビリティ委員会</li> <li>■ 環境憲章改定（2024年8月1日）</li> <li>■ 社員行動規範改定（2024年10月1日）</li> <li>■ 人事評価制度の改定（2025年4月）</li> </ul>

■ CO<sub>2</sub>排出量削減状況

これはESG&サステナビリティ経営の取り組みです。

推進を強化するために社内の体制の変更そして、社会の要請の変化に合わせて環境憲章と社員行動規範の改定を行いました。また人的資本強化の一つとして、人事評価制度の改定を来年4月実施します。

2045年カーボンニュートラル実現を目指し、Scope 1、2を対象としたCO<sub>2</sub>総排出量の削減を行っております。生産事業所への太陽光発電システムの導入、省エネルギー設備への更新などにより、着実にCO<sub>2</sub>削減を進めております。

18ページをご覧ください。

## 2025年4月、SMKは創立100周年を迎えます

## ① SMKプライベートショー「TEXPO2025」開催

テーマ：電子部品からソリューションへ  
 会期：2025年7月2日（水）～4日（金）  
 会場：東京国際フォーラム

- ◆ 100年の歴史の歩み
- ◆ 最新の部品・技術・ソリューションを多数ご提案

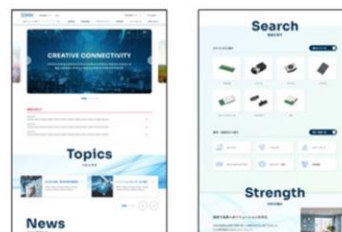


(東京国際フォーラム)

## ② SMK Webサイトフルリニューアル

公開：2025年5月  
 URL：<https://www.smk.co.jp/>

- ◆ 必要な情報を見つけやすい構造に
- ◆ 企業情報・製品情報を充実
- ◆ ステークホルダーの皆様のお役に立つ情報を拡充



(イメージ画像)

## ③ 創立100周年記念配当

株主の皆様のご長年にわたるご支援にお応えするため、1株当たり40円の記念配当を実施

第2四半期末	期末	合計
50円00銭	90円00銭（普通配当 50円、記念配当 40円）	140円00銭



お陰様で、来年4月に弊社は創立100周年を迎えます。先ほどお話しした通り、創立100周年記念配当40円を実施します。

記念行事といたしましては、7月2～4日に東京国際フォーラムにて「電子部品からソリューションへ」のテーマで「TEXPO2025」を開催いたします。皆様をはじめ、多くの方を招待して、弊社の最新の部品、技術、ソリューションを披露して、今後の新しい成長に繋げていきます。

また、来年5月公開を目標に、現在、弊社Webサイトのフルリニューアルを行っており、ステークホルダーの方々の弊社へのアクセスを格段に良くします。

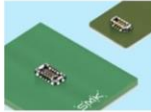
今回の中期経営計画「SMK Next100」のテーマは「持続的成長に向けた構造改革の加速」です。1年目の今期は、売上は市場の回復遅れもあり、中期計画からビハインドの状況ですが、営業利益面では改善が進み、中期計画をクリアする見込みです。社内では危機こそ変わるチャンスと捉えて、改革を進めていこうと話しております。「SMK Next100」を実行して、次の100年に繋がる新しいSMKを創っていきますので、引き続きのご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

私からの発表は以上です。

## CS事業部（Connection System）

19/31

【主要生産品目】 各種コネクタ

Information &  
Communication Technology高周波対応  
基板対基板コネクタ大電流対応  
小型基板対基板コネクタUSB Type-C™  
レセプタクル

φ3.5mmミニジャック

## Car Electronics

ロック機構付  
FPC/FFCコネクタ

FAKRA対応同軸コネクタ



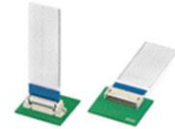
ハイボルト®ターミナル



車載カメラコネクタ

Home Appliance &  
Industry/Others

太陽電池モジュールコネクタ

0.5mm ピッチ ワンアクション  
FPC/FFCコネクタ

執行役員 CS事業部長 菅野 英雄



皆さんこんにちは。CS事業部担当の菅野です。  
日頃のご支援ありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。  
これより、CS事業部の上期結果と下期の見通しについて御説明いたします。

20ページをご覧ください。

## CS事業部 | 売上高・営業利益（連結）／市場別

20/31

## &lt;FY2024 上期&gt;

上期実績は、売上高は前年同期11%増の115億円、営業利益は前年同期121%増の11.6億円

- 車載・情報通信・産機市場 共に前期に比べ好調に推移

## &lt;FY2024 通期&gt;

通期予想は、売上高は前年同期12%増の232億円、営業利益は前年同期62%増の17.8億円

- 家電市場を含めた全ての市場において 前期を上回って推移する見込み

## &lt;売上高・営業利益&gt;

単位：百万円

	FY2023 1H 実績	FY2024 1H 実績	FY2024 2H 予想	2H/1H	FY2023 通期 実績	FY2024 通期 予想	前期比	
売上	10,349	11,519	11,639	101%	20,586	23,158	112%	
市場別	情報通信	3,167	3,824	3,946	103%	6,670	7,770	116%
	家電	1,739	1,613	1,362	84%	2,841	2,974	105%
	車載	4,719	4,919	4,993	102%	9,428	9,912	105%
	産機・その他	724	1,163	1,338	115%	1,647	2,502	152%
営業利益	526	1,160	615	53%	1,095	1,775	162%	
1USD=	¥141.27	¥153.17	¥145.00	-	¥144.56	1H：¥153.17 2H：¥145.00	-	

20  
SMK

売上高と営業利益です。下の表はそれらを市場別に表しています。

表の2列目、上期の実績は、売上は前期比11%増の115億円、営業利益は前期比121%増の11億6千万円の増収、増益となりました。売上増は、市場により伸び率の違いはありますが、家電を除く市場が伸びました。特に伸長率が高かったのは情報通信と産機です。情報通信は、昨年、大きくマイナスした北米のタブレット向けで、生産調整が一段落したことや、新機種のリリースなどで需要が回復したこと。産機は、世界的に取り組みが拡大している再生エネルギーに関連し、蓄電池向けの需要が増えていることなどがあります。利益が増えた要因は、為替が円安に振れた場合、プラスに働く、CS事業部の体質というところもありますが、上期を通して売上が計画を超える水準で継続したことが大きく影響しました。下期の見込みは、売上116億円、利益は6億1千万円としました。売上については、市場別ではプラスマイナスがあるものの、全体では上期と同水準を見込んでいます。上期より家電が落ちるのは、ゲーム機関連の需要が落ち着いたことなどによりますが、車載、情報通信は、下期も堅調。産機についてはさらに需要が伸びていくとみています。売上が同水準ながら、利益が半減するのは、レートを145円で見ている影響もありますが、販売の側面の一例では、インフレによる物価上昇の影響などから、高級モデルに比べ、普及モデルを求める市場の需要動向が反映され、当事業部の売上内容の構成が変化する影響などがあります。表の右、通期では、売上232億円、利益17億8千万円を見込みます。下期に減速する家電も、通期では前期を割り込むことは無く、全ての市場で前期を越え、前期比12%増の結果を見込んでいます。利益についても、下期は利益率は下がるものの、生産、販売は上期の堅調が続く見込みから、上期実績に下期の成果を積み上げることで、前期比62%増の結果を見込みます。

21ページをご覧ください。

**1. 事業環境**

- ・世界経済は成長軌道を確保
- ・ウクライナ、イスラエル紛争、運河問題など情勢は不安定ながらも、在庫調整が一段落し 需要回復傾向

**2. 販売状況**

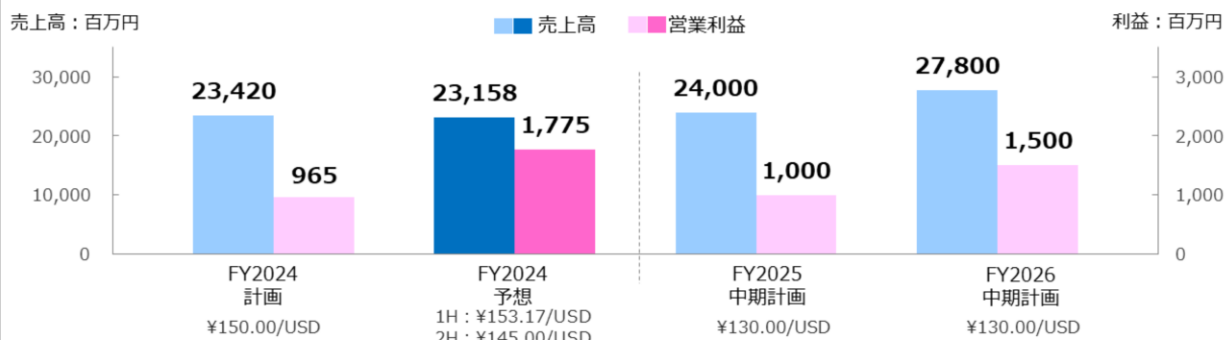
- ・車載市場と情報通信市場を2本柱として受注活動
- ・車載市場向け カメラコネクタ 好調
- ・タブレット・ウェアラブル市場 堅調

**3. 営業利益**

- ・原価高止まり（原材料、物流費、労務費高騰）
- ・為替変動

**4. 損益改善**

- ・自動化推進による生産性向上などものづくり力の強化



中期計画の進捗です。グラフの薄い色が2026年までの3カ年の計画です。

1年目の今年度は、売上は数字ではわずかに届いていませんが、目標とする的の範囲には着地できると見て良いのではと考えます。

利益については、目標の180%が見込まれることから、まずは目標はクリア。

中期の売り上げ計画では、来期は今期比3%増と同等レベルを維持しながら、再来期には16%増と大きく伸ばさせる基盤を、しっかり作るというシナリオ。

資料の2番にあるように、車載と情報通信の2本柱とする市場に加え、これから益々需要が見込まれる産機市場や、ひと段落した感のある家電市場でも、新たな受注獲得に向けた需要を掘り起こしていきます。

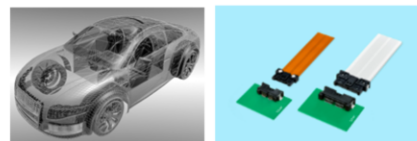
利益については、継続している円安が、円高方向へ移行することを想定し利益率が低くなる計画としていますが、開発効率の改善や、生産性の向上で利益率UPに取り組んでいきます。

22ページをご覧ください。

## 車載市場

xEV BMSの 拡販強化

- ・EVバッテリー向けFPCコネクタの販売拡大およびレパートリーの拡充 → **販売拡大・商談活発化**

ADAS、インフォテイメント

- ・車載カメラコネクタ カメラの高画素化に向けた**高速伝送対応**
- ・1Gbpsイーサネットコネクタの業界最幅狭タイプの販売拡大 → **ロック機構付きUSB Type-C対応コネクタ 商品化**



## ICT市場

11月リリース予定

- ・高性能化するスマートフォン/タブレット向けコネクタ（**小型・高速・大電流**） → **新製品開発**
- ・ウェアラブル向けコネクタの積極投入



## 再生エネルギー関連市場への取り組み

- ・小型、大電流対応コネクタの開発強化 → **商談活発化**



## BCPへの対応強化

中期計画達成に向け、重点的に取り組む市場と製品についてお話しします。市場については、車載、情報通信、産機の3つです。車載市場では、市場が一斉にEVの方向へ向いた時期に比べると、今は落ち着いた感がありますが、動力の電動化は車に限らず幅を広げ、新たな乗り物へ展開されるなど、xEVのフィールドはこの先も拡大が見込まれます。BMSなどの用途で、評価をいただいているFPCコネクタは活発な商談が今も進んでいるので、さらに、販売を拡大させていきます。FPCコネクタを一例に挙げましたが、その他、動力系、電装系などへの技術提案でも、具体的な商談が進んでいるので、お客様の開発製品の実現化に向け、引き続き、受注の獲得に注力していきます。ADAS、インフォテイメントの関連では、内部配線で接続の信頼性確保に欠かせない、ロック機能を持ったUSB Type-Cを今月リリース予定です。また、車載カメラコネクタでは、高画素化が進むセンシング用途への技術提案や、これまでの実績から開発案件を継続的にいただいています。情報通信の市場では、私たちが強みと考えている、小型/高速/大電流の開発提案を、スマホやタブレット、ウェアラブルのセット向けに引き続き取り組んでいきます。再生エネルギーへの取り組みが活発な産機市場では、先ほどお話しした蓄電池関係はもとより、  
 ・発電効率を高める  
 ・設置場所の自由度を高める  
 ・取付作業を改善するなど、多方面で開発が進む、ソーラーパネルに向けたコネクタの提案についても、活発に商談が進んでいるので、そうした案件の具体化も進めていきます。

CS事業部からの報告は以上です。

引き続き、皆様からの御支援をよろしくお願いいたします。  
 ありがとうございました。

## SCI事業部（Sensing, Communication &amp; Interface）

23/31

【主要生産品目】スイッチ、車載カメラ、無線モジュール、リモコン、タッチセンサー

## 主な用途

- ▶ 操作スイッチ
- ▶ スマホ用スイッチ
- ▶ 車載用カメラ
- ▶ 無線モジュール
- ▶ 各種リモコン
- ▶ 車載用タッチセンサー
- ▶ 産機民生用タッチセンサー

## SW - Switch -



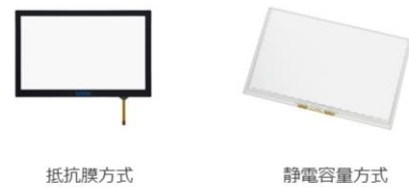
## CU - Composite Unit -



## RC - Remote Control -



## TS - Touch Sensor -



執行役員 SCI事業部長 伊東 崇



皆さんおはようございます。SCI事業部担当の伊東です。  
 日頃からのご支援、ご指導、誠にありがとうございます。  
 ここからは、SCI事業部の上期結果・下期見通しと中期計画の進捗状況、重点取組みについてご報告させていただきます。

ページ24をお願いします。

## SCI事業部 | 売上高・営業利益（連結）／市場別

24/31

## &lt;FY2024 1H 実績&gt;

売上高は前年同期比96%の120億円、営業利益は前年同期の△6.1億円から△8.5億円に赤字拡大

- 前年同期比で家電市場は115%と好調、情報通信38%、及び車載市場66%と低調

## &lt;FY2024 2H 予想&gt;

売上高は上期比105%の126億円、営業利益は△2.4億円と赤字幅縮小

- 車載市場が上期比181%の大幅増

## &lt;売上高・営業利益&gt;

単位：百万円

	FY2023 1H 実績	FY2024 1H 実績	FY2024 2H 予想	2H/1H	FY2023 通期 実績	FY2024 通期 予想	前期比	
売上	12,512	11,982	12,581	105%	25,536	24,563	96%	
市場別	情報通信	615	230	221	96%	1,532	451	29%
	家電	7,278	8,415	7,100	84%	14,811	15,515	105%
	車載	3,350	2,217	4,012	181%	7,150	6,229	87%
	産機・その他	1,269	1,120	1,248	111%	2,043	2,368	116%
営業利益	△608	△851	△235	-	△2,145	△1,086	-	
1USD=	¥141.27	¥153.17	¥145.00	-	¥144.56	1H：¥153.17 2H：¥145.00	-	

24  
SMK

売上高と営業利益の実績、予想についてご説明します。

資料下段に示す表は、それらを市場別に表したものです。

まず、表の左側に示す今期2024年度上期の実績は、前年同期比96%となる120億円。

また、営業利益では、前年同期 マイナス6億1千万円からマイナス8億5千万円となり、

減収減益の結果となりました。市場別で見ますと、家電市場では、サニタリー用、エアコン用リモコンが好調に推移し、115%と伸長したものの、一方、情報通信市場ではスイッチ主力機種での計画外のEOLの前倒し、また車載市場では、操作ユニット及びカメラモジュールでの得意先在庫調整の影響を引き摺り、低調に推移したこと、併せて、今期後半から量産開始を予定していた操作ユニット関連の新製品が得意先都合により来期にズレ込んだ事などがマイナスインパクトとして大きく響きました。下期の見込みでは、売上125億8千万円、営業利益はマイナス2億3千5百万円としています。売上については、上期足を引っ張った車載市場でのカメラモジュールの受注回復及び操作ユニットでの在庫調整解消に向けた受注増などもあり全体を牽引し、上期以上に伸張するとみています。また、利益面では、為替影響なども含めたコストアップ分の売価への反映効果やプロダクトミックスによる材料費率低減、それから各工場で行っている自動化・省人化ラインの導入による生産性向上効果による利益改善を見込んでいます。表の右側に示す通期では、売上高245億6千3百万円、営業利益はマイナス10億8千6百万円を見込みます。上期のマイナスを下期の伸長でカバーしきれない状況ではありますが、来期以降の更なる伸長に繋げるべく、基盤固めと赤字圧縮に集中的に取り組めます。

25ページをお願いします。



### 1. 既存市場

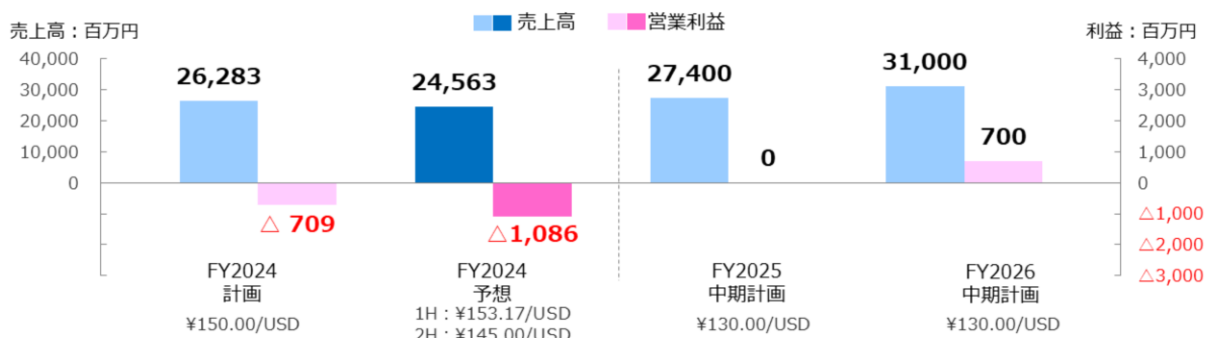
- ・家電・住設市場：サニタリー用・エアコン用を中心に好調に推移
- ・車載市場：主要顧客の在庫調整解消方向、及び採用モデル追加による売上増

### 2. 新市場開拓

- ・センシング+新技術による高付加価値製品を開発・・・Milweb® Sleep
- ・既存技術による商品開発・・・自立給電型コイン電池モジュール

### 3. 組織体制強化

- ・拡販強化：営業/設計の組織体制を見直し、エリア別拡販サポート体制を構築中
- ・生産体制強化：為替リスク軽減・国内回帰要求への継続活動中
- ・生産性向上：リモコン自動組立検査機導入による省人化、及び海外事業所間横展開の推進  
協働ロボット導入による部分自動化の推進



ここからは、中期計画の進捗をご説明します。

下段のグラフが、今年から2026年までの3カ年の計画です。

初年度となる今年度の予想では、売上高、利益ともにビハインドした状況ですが、2025年度以降に向けて、先程もご説明をした通り、1項の既存市場ではネックとなっていた車載市場向けカメラモジュール及び操作ユニットでの需要回復、及び量産開始時期がズレた新製品の量産立上げによる売上寄与も含め、現状での落ち込み分のキャッチアップも含めた改善を見込んでいます。3項に示す組織体制強化への対応では、拡販強化策として、国内・海外の各エリア別の拡販体制を見直し、集中拡販の確実な実行を目的として、事業部人員の現地への異動・配置の実行を開始しています。上期では、国内販売拠点への人員配置の実行を開始、下期以降、海外拠点への対応も実行し、売上拡大を図ります。また、生産性向上については、現在進めている各工場での自動化による効果として、省人化では約マイナス50%の人員削減、また生産能力では約2.5倍への生産効率アップによる改善効果も一部実現しており、横展開による更なる効率アップを図ります。これらの対応により、売上拡大とあわせ、現時点でのビハインド分のキャッチアップも含め、利益では来期2025年度にはブレイクイーブン、3年目となる2026年には確実に利益創出すべく、継続して活動推進して行きます。2項の新規市場開拓については、次ページにて詳細をご説明します。

26ページをお願いします。

**<家電・住設市場>**

- ・主要顧客への深耕
- ・グローバル開発・生産体制での挑戦
- +αの提案活動
  - ◆コアテクノロジーの融合
  - ◆機能とデザインの両立

**<車載市場>**

- ・ユニット品の商品提案
- ・E-Bikeビジネスへの拡大
- ・車載カメラモジュールの商品群拡充
- ・EVやADASへの対応
- ・グローバル開発・生産体制での挑戦
- ・新分野の開拓

**<新市場・商品開発>**

既存技術による商品開発  
センシング+新技術による高付加価値製品の開発

**Milweb® Sleep**

AIを活用して非接触で睡眠深度を測定

- ・非接触測定
- ・超低消費電力Bluetooth® Low Energy、UART対応
- ・家電などの機器との連携が可能



(健康サポートEXPO内) 快適睡眠フェア2024に出展

**自立給電型コイン電池モジュール**

コイン型電池CR2032に置換え  
エナジーハーベスティングモジュール

- ・メンテナンスフリー
- ・環境配慮デザイン
- ・超低消費電力Bluetooth® Low Energy、SoCにより機能拡張



2024年9月プレスリリース



ここからは、中期計画達成に向けて重点的に取組む市場、製品について話します。対象の市場では、「家電・住設」、「車載」、「新市場」の3つとなります。先ず家電・住設市場については、好調に推移しているサニタリー及びエアコン向けを中心に、主要顧客への更なる深耕として+アルファの提案活動を展開しており、新たな目線での積極的な提案活動により新規引合いの獲得に繋がっています。また、開発体制では、海外設計部門とジャパン設計部門のコラボレーションによるプロジェクト活動も積極的に進めており、グループ総力での開発体制によるスピード感のある対応を実践しています。車載市場向けでは、ユニット品を中心としたE-Bikeビジネスにて標準搭載される製品群へ注力し、安定的な売上確保と拡大を目指して行きます。カメラモジュール製品においては、EV、ADAS用途を中心に、トラック用での受注拡大を目指し対応を進めています。新規市場に向けた商品開発では、新たに2つの製品を開発しており市場への投入を目指しています。先ず一つ目は、弊社のミリ波によるセンシング技術とAIとの融合により実現した、オリジナルの非接触で測定可能な睡眠深度測定デバイスであるMilweb® Sleepを開発しました。この製品により、睡眠の質をスタンドアロンかつリアルタイムで精度の高い解析を可能としました。現在得意先とのPoCも開始しており、家電機器との連携による更に快適で良質な睡眠の実現と早期実用化を目指しています。この睡眠関連であるスリープテック市場は、現状、世界では1兆円、また日本市場では100億円規模と言われており、今後も右肩上がり伸びる市場と見込まれていますので、今後の伸びと可能性を非常に期待している製品となります。二つ目は、自立給電型コイン電池モジュールを開発しており、プレスリリースもさせて頂きました。この製品は、IoTデバイス向けにエナジーハーベスティングモジュールを既存のCR2032コイン型電池サイズで製品化したもので、通信回路、二次電池、環境センサー、そしてPVセルを集約した製品です。使い方はアイデア次第で幅広い用途が見込まれ、プレスリリース後も非常に大きな反響があり、数多くのお問合せを頂いている状況です。これら新開発の製品も誕生しており、その他現在開発中の案件も含め、次期主力とすべく中期期間内での早期量産化を目指し、引続き活発な活動を展開して行きます。

SCI事業部からの報告を終わります。ありがとうございました。

旧開発センターと旧営業本部マーケティング部内のオープンイノベーション活動による新規ビジネス開発チームを統合し、2024年4月にイノベーションセンターを設立。新規ビジネス開発リソースを一本化し、強化・スピードアップを図る。

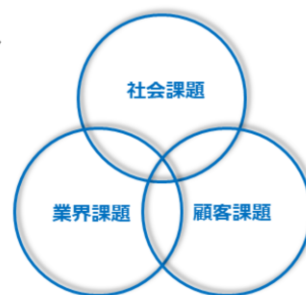
### イノベーションセンターのミッション

1. 独自性ある高付加価値技術・製品によりSMKの次の収益の柱の創造
2. HW+SW（アルゴリズム）+サービスの新たなビジネスモデルの創造
3. 社会課題解決型のソリューションビジネスの創造

社内R&Dと社外の先端技術を活用したオープンイノベーションを積極的に掛け合わせ、社会課題、業界課題、顧客課題の解決を目指しています。

### イノベーション活動のテーマ

- ・ ヘルスケア
- ・ ADAS
- ・ IoT
- ・ AI



取締役常務執行役員 イノベーションセンター所長 原 哲雄



今年4月に設立したイノベーションセンターは既存ビジネスの領域外で新規事業開発を行っている部門です。

イノベーションセンターのミッションは3つありまして、1つ目は、独自性のある高付加価値技術・製品によりSMKの次の収益の柱を創っていくこと、2つ目は、従来型のハードウェアビジネスにアルゴリズム等のソフトウェアとサービスを組み合わせた新たなビジネスモデルを創っていくこと、3つ目は、社会課題解決型のソリューションビジネスを創っていくこと、になります。

これらは社内開発と社外の先端技術を活用したオープンイノベーションを組み合わせせて実現を目指して参ります。

イノベーション活動のテーマは、ヘルスケア、車載ADAS、IoT、AIとなります。

28ページをお願いします。

## イノベーションセンター | 売上高・営業利益（連結） / 市場別

28/31

## 【売上】

- 通信モジュール：既存顧客の所要減により対計画90.3%  
 <Bluetooth®モジュール> 既存顧客のモバイルプリンタ用、医療機器用が所要減により減収  
 <Sub-GHzモジュール> 照明機器用が前年並みに推移
- オープンイノベーション：POCが下期にずれため、売上が下期偏重

## 【営業利益】

- 新規事業立ち上げのための計画外の市場調査費が発生した分マイナス増

## &lt;売上高・営業利益&gt;

単位：百万円

	FY2023 1H 実績	FY2024 1H 実績	FY2024 2H 予想	2H/1H	FY2023 通期 実績	FY2024 通期 予想	前期比	
売上	210	113	165	146%	398	278	70%	
市場別	情報通信	0	0	33	-	0	33	-
	家電	0	0	0	-	1	0	-
	車載	0	5	0	-	2	5	250%
	産機・その他	210	108	132	122%	395	240	61%
営業利益	△95	△200	△287	-	△193	△487	-	
1USD=	¥141.27	¥153.17	¥145.00	-	¥144.56	1H：¥153.17 2H：¥145.00	-	

28  
SMK

イノベーションセンターの売上高と営業利益についてです。

上期の売上実績は113M円、下期売上予想は165M円で通期278M円の予想で、市場別売上で見ると86%が産業機械・その他市場が占めております。営業利益は上期実績がマイナス200M円、下期がマイナス287M円の予想、通期ではマイナス487M円の予想となっております。下期に営業利益のマイナスが増加する要因は、新規事業立ち上げのための計画外の市場調査費が発生する為です。

売上の中身についてですが、メインの通信モジュールは既存顧客の所要減により対計画90.3%で、Bluetoothモジュールが既存顧客のモバイルプリンタ用、医療機器用が所要減により減収となり、SubGhzモジュールの照明機器用は前年並みに推移しました。オープンイノベーション関連については、上期に見込んでいたPoCが下期にずれ込んだため、下期にその分の売上を見込んでおります。

29ページをお願いします。

## イノベーションセンター | 中期計画進捗

29/31

## 中期成長戦略

## ① センサーとアルゴリズムを組み合わせた開発の推進

- ・ コアとなるアルゴリズムを自社開発することで利益率の向上や、顧客対応を可能に
- ・ 積極的に大学や企業と連携し、自社開発で足りない部分は補完

## ② ヘルスケア領域におけるビジネス開発

- ・ 認知症／鬱に関連するパートナー企業（保険、製薬会社等）と連携したビジネス機会を追求
- ・ ハードウェアビジネスに加え、高利益率のサブスクリプションビジネスを追求

## トピックス

- ・ 音響センサーを小売実店舗什器に設置。故障データをもとに故障予知のアルゴリズム開発を進めるべくPOC推進中。
- ・ 筋電センサーを用いたゴルフスイングの改善検討を開始。
- ・ 電波式生体センサーは上期の開発目標を達成。下期は心拍数／心拍間隔の精度向上を図る。
- ・ 声による分析技術は検知精度80%以上に至り、開発完了に目途。生命保険会社や大手SIer等と商談継続中。
- ・ 電波式見守りセンサーは浴室での転倒や溺水検知に強み。複数の高齢者施設と商談の最終交渉中。
- ・ 新たにSAS（睡眠時無呼吸症候群）リスク可視化技術の取り組みを開始



中期計画の進捗についてです。

中期成長戦略の1つであるセンサーとアルゴリズムを組み合わせた開発の推進については、スーパーストアの小売実店舗の什器に音響センサーを設置し、什器の劣化や故障データから故障を予知するアルゴリズムを開発することを目的にPoCに取り組んでおります。

筋電センサーにおいては、次のページでも詳細説明しますが、ゴルフスイング解析によるスイング改善の検討を開始しました。内部開発の電波式生体センサーにおいては、これも次のページで詳細説明しますが、上期の開発目標を達成し、下期は心拍数と心拍変動の精度向上を図っていきます。

ヘルスケア領域におけるビジネス開発の認知症と鬱に関するビジネス開発においては、この上期に声による分析技術の精度向上に取り組んだ結果、検知精度が目標80%以上に至り、今後本格的なPoCを行った上で来期中場頃には本サービスを開始する方向で、生命保険会社や大手SIerと商談を進めております。

電波式見守りセンサーにおきましては、浴室での転倒や湯舟での水没検知を強みとして、複数の高齢者施設と商談を進めており、来期には本サービスを開始できる様に取り組んでおります。

そして新たに睡眠時無呼吸症候群のリスク可視化技術の開発にも取り組んでおり、次のページで詳細を説明致します。

30ページをお願いします。

## 【筋電センサー「Muscle Tracker®」】

## 概要

- SMK独自のアルゴリズムを用い、筋電センサーにて計測した筋電位から筋活動の可視化や筋疲労の検出が可能に

## トピックス

- ゴルフスイング解析：ゴルフスクール運営会社と連携し、スイング改善に向けた検討を開始
- 下期は、上級者や中級者の筋電位データやスイングデータ等を解析し、スイング×筋電位の相関を確認予定



## 【SAS（睡眠時無呼吸症候群）リスク可視化技術】

## 概要

- スマホやマイクデバイスを用いて就寝中の呼吸音を分析
- 即日でSASのリスクを判定

## トピックス

- SASリスク検知アプリのプロトタイプが完成
- バス会社などでのトライアル評価を開始



## 【電波式生体センサー】

## 概要

- 生体情報から体調変化やストレスレベルなどを推定
- SMKにて生体情報を取得するアルゴリズムを開発中

## トピックス

- 静止状態（座位、仰向け/うつ伏せ寝）での呼吸測定精度の開発目標値を達成
- 下期は、特許出願を行った信号処理手法を用い、静止状態での心拍数/心拍間隔の精度向上を図る
- 車載を想定した振動下にて生体情報の精度を高める手法も検討予定

## 【乗員検知センサー】

## 概要

- ミリ波レーダーを車室内の天井などに設置し、乗員の有無、体格（大人/子供）、位置、乗車人数を判別
- カナダPontosense社と協力し、開発を推進中

## トピックス

- 国内外の得意先と商談中



イノベーションセンターの重点取組市場と重点製品についてです。

左上の筋電センサーについてですが、これはSMKの独自アルゴリズムを使うことで、筋電センサーにて計測した筋電位から筋活動の可視化や筋疲労の検出を可能とするものです。ゴルフスクール運営会社と連携し、ゴルフスイング解析によるスイング改善を目的とした開発検討を開始しました。下期には上級者や中級者の筋電位やスイングデータを解析し、スイングと筋電位の相関を分析する予定となっています。

左下の電波式生体センサーは、生体情報から体調変化やストレスレベルを推定する技術で、SMKにて生体情報を取得するアルゴリズムを開発中です。本上期では静止状態での呼吸測定の開発目標精度を達成しました。下期には特許出願を行った信号処理手法を用いて、静止状態での心拍数と心拍間隔の精度向上を図っていき、車載を想定した振動状況での生体情報の精度を高める手法も検討していきます。

右上は睡眠時無呼吸症候群のリスク可視化技術についてです。これはスマホやマイクデバイスを用いて、就寝中の呼吸音を分析するもので、即日でリスク判定を可能とするものです。本上期にアプリのプロトタイプが完成し、バス会社などでのトライアル評価が開始されました。

右下は車載向けの乗員検知センサーで、ミリ波レーダーを車室内の天井などに設置し、乗員の有無、大人・子供の体格や、位置、乗車人数を判別するもので、カナダのPontosense社と協力して開発を推進しており、国内外の得意先と商談中のものです。

以上でイノベーションセンターの発表を終わります。

本日はお忙しい中、SMK決算説明会にご出席いただき、ありがとうございました。

## 注意事項

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別の事情の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じる可能性があります。当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみで全面的に依拠してご判断されることは、くれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

## 商標について

- Android TV は Google LLC の商標です。
- Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。SMK株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。
- USB Type-C™は、USB Implementers Forumの商標です。
- ハイボグ、HCF、MilwebおよびMuscle Trackerは、SMK株式会社の登録商標です。
- その他記載されている社名・商品名などは各社の商標または登録商標です。

